

かざね  
四万十の風音

しんせん  
森&川だより



「滑床山開き」



6月30日、愛媛森林管理署管内滑床山国有林の「滑床溪谷」において、<sup>なめとこけいこく</sup>松野町などが主催する恒例の「滑床山開き」が行われました。



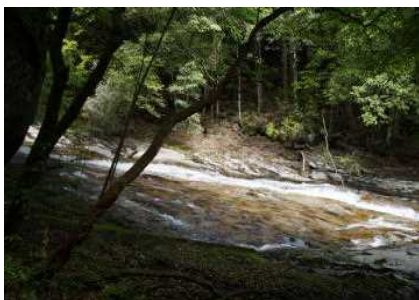
とりにわ  
鳥居岩



ゆきわ  
雪輪の滝



みすし  
三筋の滝



であいなめ  
出会滑



かじか  
河鹿の滝

滑床溪谷

例年ゴールデンウィーク前に行われるこの行事は、コロナ禍で実施が危ぶまれていましたが、関係者の熱意により規模を縮小して実施となったところです。



滑床山開き神事の様子

山開きには、愛媛森林管理署長をはじめ環境省土佐清水自然保護官など関係機関や、地元の松野東小学校と松野西小学校の三・四年生児童が「緑の少年団」として参列し厳かに神事が執り行われ、渓谷利用者の安全を祈願しました。

その後、アメゴの放流や、本渓谷に居着いた「なめ（滑床渓谷の万年荘で保護した猫）」への松野町長による「滑床おもてなし大使任命式」も行われ、「なめ」が滑床の情報発信の一役を担うことになりました。

滑床おもてなし大使任命式」も行われ、「なめ」が滑床の情報発信の一役を担うことになりました。



滑床おもてなし大使任命式の様子



猫の「なめ」と任命書



緑の少年団による稚魚放流

山開き神事終了後には、「緑の少年団」と※「<sup>あまみず</sup>雨水のぼうけん」という教材を使って、森林の保水力や水の浄化作用について勉強しました。



紙芝居「雨水のぼうけん」を上映

ここ滑床溪谷は、自然休養林および国立公園として利用されるようになっておおむね半世紀と歴史ある地域です。当センターでは、この滑床の自然の素晴らしさを、森林環境教育を通じ、育っていく地元の子供たちに伝え、地元関係者は、イベントやメディア等を最大限利用し滑床の良さを発信し、利用拡大と保全で協力することを双方が確認し、一連の山開き行事が終了、南予地域の登山シーズンが開幕しました。

※「<sup>あまみず</sup>雨水のぼうけん」

近畿中国森林管理局<sup>みのお</sup>箕面森林ふれあい推進センターの職員が、森林環境教育の教材等として、教育関係者や一般の方々に広く利用いただけるよう作成した紙芝居です。



## 「松野町の小学校2校で年間を通じた森林環境教育」

当センターでは松野町にある小学校2校（松野西小・松野東小）の三・四年生を対象に年間を通しての森林環境教育を実施しています。

1学期、松野西小学校四年生10名を対象に「校庭の樹木」（6月10日）・「森林の働きと水のゆくえ」（6月24日）・「木工クラフト」（7月1日）の3回を、松野東小学校の三、四年生8名を対象に「校庭の樹木」（6月18日）・「空飛ぶ種子」（7月2日）の2回を、実施しました。

「校庭の樹木」では、児童達にとって毎日触れることの出来る校庭の樹木をまわりながら、センター職員が樹木の名前の由来や木材としての使われ方などを簡単に説明、その後、樹木の名前や由来を覚え、森林や自然環境への興味や関心を持ってもらうため、児童達が木製の樹木名板を作製し校庭の樹木にシュロ縄で取り付けました。「空飛ぶ種子」では、種子の観察や種子模型を製作し飛ばす体験を通して植物の種子が様々な工夫をして種子を分散していることを知り、花の蜜や果実に誘われて来る昆虫や鳥たち、種子のでき方や種子の散布など1年を通して観察することで、季節による変化や樹木の特徴等を学習してもらいたいと考えています。「森林の働きと水のゆくえ」では、スライドでの説明で、水源地の森林が雨水を貯え、きれいな水を育む仕組みや、災害を防いで、大気をきれいにしたり、私たちの生活に欠かせない物を生み出してくれるなど森林の持つ働きを説明しました。

また、浄水場と下水処理場の仕組みを図等で説明して、地球上の水は循環していて、取り尽くしてしまうことはないけれど、どこかで汚してしまうと大変なので、できるだけ汚さないように利用することの大切さを説明しました。「木工クラフト」では、初めに木材の特徴と題して木材の持つ優れた環境材料としての特性について説明し、次に、木工クラフトの作り方や注意点を説明。最後に山、川、海と生き物を題材とした自由な発想の壁掛け木工クラフトを作製しました。

なお、1学期に行った授業のほとんどは地元ケーブルテレビ局が取材し活動の様子を後日放映しました。

学校からいただいた児童の感想には、「樹木名板を作った自分の木がもっと好きになった。他にも木のことをもっと知りたい。」「外国から来ている木もあってびっくりした。」「アルソミトラやラワンの種の飛び方がめっちゃおもしろい。」「植物の種についてもっと知りたい。」など書かれていました。身近な校庭の樹木や木工クラフト作りなどを通して学習したことで、自分たちの暮らしと深い関わりのある樹木や森林の役割を知ってもらい、興味を持ってもらえたと思います。

担任教諭によると両校ではその後、児童達が学習した内容を新聞等にまとめる作業をしているとの事です。

2学期には、「木工クラフト等(松野西小と松野東小)」「土にすむ生物や水の土壌浸透実験(松野西小と松野東小)」「八面山登山体験(松野西小)」を予定しています。今後も森林環境教育を通して森林や自然への理解を深めていってほしいと考えています。



松野西小、樹木学習の様子



松野東小、樹木学習の様子



松野東小、樹木名板設置したよ



松野東小、種子学習の様子



松野東小、種子の風洞実験の様子



松野東小、アルソミトラの滑空



松野西小、木工クラフト製作



松野西小、木材の特徴を説明

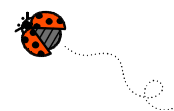


松野西小、壁掛け製作の様子



松野西小、壁掛け製作の様子

## すご〜いのできたよ



## 『小学校5校で夏休み森林・木工教室を開催』

四万十市役所子育て支援課と当センターとの連携で、市内の<sup>たけしま</sup>竹島小学校(7月29日)、<sup>やつか</sup>八束小学校(8月2日)、<sup>わらびおか</sup>蕨岡小学校(8月4日)、<sup>おおゆう</sup>大用小学校(8月5日)、<sup>としおか</sup>利岡小学校(8月12日)計5校の放課後教室児童合計76名を対象にした森林・木工教室を小学校や地区の集会所で開催しました。

はじめに、「<sup>あまみず</sup>雨水のぼうけん」という教材を使って、森林の保水力や水の浄化作用について勉強しました。

次はお楽しみの木工クラフト作りです。テーマは山、川、海と生き物を題材とした自由な発想の壁掛けです。木材の持つ優れた環境材料としての特性と作り方や注意点を説明を受けた後、製作見本を参考に、最初にイラスト見本集から自分が書きたい絵を選んで、ヒノキの板に鉛筆でカーボン紙を使って複写する方法を学び、フリーハンドにより下絵を描きポスターカラーや油性カラーマーカーで着色しました。その後、クロモジやコルクなどの木枠を貼り付け、そして、予め準備していたカブトムシ、クワガタムシ、モンシロチョウ、アゲハチョウ、テントウムシなどの各パーツを選んで着色し、最後に、小枝、木の実や<sup>かくと</sup>殻斗、小石、貝殻等を工夫しながら配置して作製しました。

終わりに、児童より、「いろいろ選べる物があって、めっちゃ楽しかった。」

また、作りたい。」「夏休みの宿題工作ができてうれしい。」などの感想とお礼の挨拶がありました。

今回の森林環境教育を通して子ども達には、森林の大切さを知ってもらい、木材に親しんでもらえたと思います。



八束小学校、木工クラフト製作



大用小学校、雨水のぼうけん



蕨岡小学校、木工クラフト製作



蕨岡小学校、木工クラフト製作



竹島小学校、木工クラフト製作



八束小学校、木工クラフト製作





利岡小学校、木工クラフト製作



大用小学校、説明の様子



蕨岡小学校、木工クラフト製作



利岡小学校、雨水のぼうけん

## すご〜いのできたよ





## すご〜いのできたよ



## 「黒尊山広葉樹植栽地の下刈を実施」

当センターでは自然再生事業の取り組みとして、平成25年11月に四万十森林管理署管内の黒尊溪谷親水公園周辺の自然再生を行うために、四万十川地域住民を代表する組織「しまんと黒尊むら」の地元住民と協働で、親水公園に隣接する黒尊山国有林9林班に、ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキ、

コナラ、クヌギ等広葉樹の植栽とシカ防護ネット300mを設置しているところ。夏場、植栽地の雑草の繁茂が著しく生育を阻害していることから、7月5日にシカ防護ネット柵のメンテナンスとあわせて職員実行で下刈作業を実施しました。

今後も植栽木の生育状況により保育作業を実施していきたいと考えています。



※シカ防護ネット柵の外は、野ウサギの糞も数多く見られますが、平成26年度に野ウサギ対策を追加し、定期的なメンテナンスの結果、やっと有用広葉樹も育ちつつあります。

## 「センダンの驚異の成長力を実感」

近年、<sup>そうせいじゆ</sup>早生樹への期待が高まる中、センダンはセンダン科の落葉広葉樹で、日本では、九州、四国、沖縄、小笠原に分布し、また、陽樹で成長がとても早く20年から30年で利用径級に達すると言われていています。材面はケヤキに似ており、代替材として用いられています。

平成26年度に自然に生え、下列で刈り残したものが、わずか7年後、二又の片方の胸高直径(1.2m位置がペットボトルと同じ長さ)は約23cm、樹高は約10mにもなりました。



平成26年度7月の状況



平成27年度8月の状況



平成28年度7月の状況



令和元年度7月の状況



令和3年度7月の状況 PETボトル



令和3年度7月の状況

## 『シカ防護ネット柵の定期的なメンテナンス』

滑床山国有林の植生回復のため、<sup>さんぼんぐい</sup>三本杭やその周辺の自然再生地に設置したシカ防護ネット柵は、令和2年度末で、累計面積9.25 ha、延長5,620mとなっています。

シカ防護ネット柵の総延長が延びるに連れ、台風や強風等によるネットへの倒木や積雪による雪の重みが原因で支柱が折れ、二ホンジカが防護ネット内に侵入して回復途上の植生を食害することがあることから、点検・補修（メンテナンス）作業が欠かせません。

今年度も定期的な点検・補修（メンテナンス）作業を実施しています。



シカ防護ネット柵の見廻り



シカ防護ネット柵の補修



農林水産省 四国森林管理局  
 四万十川森林ふれあい推進センター  
 高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2  
 電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

